

墓碑の成聖祈祷

輔 君や、祝讃せよ。
司 我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に。
詠 アミン

常套の始め

誦 我等の神や光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。
天の王慰むる者や、真実の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者や、萬善の寶藏なる者、生命を賜うの主や、来たりて我等の中に居り、我等を諸の穢より潔くせよ、至善者や我等の靈を救い給え。
聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。(三次)

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。
至聖三者や我等を憐めよ、主や我等の罪を潔くせよ、主宰や我等の過を赦せ、聖なる者や臨みて我等の病を癒し給え、悉く爾の名に因る。
主憐めよ。(三次)

司 光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。
天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は来たり、爾の旨は天に行わるるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に与え給え、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導かず、猶我等を凶惡より救い給え。
誦 蓋国と権能と光栄は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。
詠 アミン。

コンダク(第六調)

詠 又は誦
助くるに速やかにして、護るに強き者や、今爾が能力の恩寵にて近づき、爾

が諸僕（婢）の業に福を降し、之を固め之を善き竣功に至らしめ給え。蓋爾は凡そ欲する処を行をよくする全能の神なればなり。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

ハリストイアニン等の恥を得ざる転達、造物主の前に変わらざる仲保や、罪なる者の祈りの声を軽んずるなかれ、仁慈なるに因つて速やかに我等を助け給え、蓋我等切に爾に呼ぶ、生神女や爾を尊む者に常に代わりて、急ぎて祈り、切に願ひ給え。

主に祈らん。

主憐れめよ。

祝文

高きに臨み、卑きを顧みる主、我等の神、我等の霊の永遠の成就者よ、爾自ら至上の降福を以て、爾の僕（婢）「某」の墓に建てられしこの碑に、爾の聖神を遣わし、之を以て爾に於ける信仰の証者とならしめ給え。人を愛する主宰よ、願くは爾の恐るべき審判に日に於いて、此処に眠る者に永遠の住居を與え給わんことを。願くは

輔 詠 司

爾が天の降福を以て此の墓碑に福を降し、聖水を灌ぐを以て、此処に爾の能力と扶助を充たし、サタナの全ての謀を退け、之を破り給え。蓋ハリストス我等の神よ、爾は一切に祝福し、之を成聖する主なり、我等光栄を爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに献ず、今も何時も世世に。

詠

※（司祭墓碑に聖水を灌ぎて言う。）

此の墓碑は、至聖なる聖神の恩寵と聖水の灌がるるを以て降福・成聖せらる、父及び子及び聖神の名によりてなり。（三次）

司

アミン。（毎時応答する。）

詠

※（続いてリティヤを献ず。パニダを献ずる可。）

讃詞

人を愛する救世主や、死せし義人の霊と偕に、爾が僕（婢）の霊を安んぜ

詠

しめて、彼（等）を爾に在る福樂の生命に護り給え。
主や、爾が諸聖人の安息する處に、爾が僕（婢）の靈を安んぜしめ給え、爾独
り人を愛する主なればなり。

光榮は父と子と聖神に歸す、
爾は地獄に降りて繋がれし者の鎖を釈きたる神なり、親ら爾が僕（婢）の靈
を安んぜしめ給え

今も何時も世世に、アミン。
独 潔く玷なき童貞女、種なくして神を生みし者や、彼（等）の靈の救われ
んことを祈り給え。

重 聯 禱

神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。

主憐めよ。（三次）

又寝りし神の僕（婢）〔某〕の靈の安息の為、及び彼（等）に凡そ自由と自由ならざる

罪の赦されんが為に祈る。

主憐めよ。（三次）

主神が彼（等）の靈を諸義人の安息する所に入れ給わんことを祈る。

主憐めよ。（三次）

彼（等）に神の憐と天国と諸罪の赦とを賜わんことを、ハリストス我が死せざ
る王及び神に願う。

主賜えよ。

主に祈らん。

主憐めよ。

司 詠 輔 詠

諸の靈神と諸の肉體との神、死を亡ぼし悪魔を虚うし、爾の世界に生命を
賜いし主や、爾親ら寝りし爾の僕（婢）〔某〕の靈を、光る處、茂き草場、平
安の處、病と悲と歎との遠ざかる處に安息せしめ、善にして人を愛する神なる
に因りて、彼（等）が、或は言、或は行、或は思にて犯しし悉くの罪を赦し給
え、蓋人一も生きて罪を行わざる者なし、唯爾は罪なし、爾の義は永遠の義、爾の
言は眞実なり。

〔高聲〕 蓋ハリストス我等の神や、爾は寢りし爾の僕（婢）〔某〕の復活と生命と安息なり、我等光榮を爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに献ず、今も何時も世世に。

輔 詠
アミシ。
えいち
睿智。

司 至聖なる生神女や、我等を救い給え。

詠　ヘルワイルムより尊くセラフイルムに並びなく栄え、貞操を破らずして神言を生み
し、実の生神女たる爾を崇め讃む。

司
ハリストス神我等の侍や、光荣は爾に帰す、
光荣は爾に帰す。

詠
光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。主憐めよ（三次）
福ふくを降くだせ。

死より復活せしハリストス我等の眞の神は、その至浄なる母、光榮にして讚美たる聖使徒、克肖こくしやう捧神なる吾が諸神父、こくしやう使徒日本の大主教聖ニコライ、及び諸聖人の祈禱に因りて、我等に別れし其僕その（婢）〔某〕の靈を、諸義人の住所に入れ、ふじやうアウラムの懷に安んぜしめ、諸義人の列に加え、及び我等を憐み給わん、善にして

人を愛する主なればなり。
アミン。

永遠かなの記憶

(一、二、のどちらを用いても良い。)

輔 一、福樂にかな適かないて常に記憶せらるる吾が兄弟（姉妹）〔某〕や、爾の記憶は永遠な
る哉。かな

二、主よ、爾の寝りし僕（婢）〔某〕に、其福なる寝りに於ける永遠の安息を与え、
 彼（等）に永遠の記憶をなし給え。

詠
永遠の記憶。

(三次)